

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401673		
法人名	株式会社 日新開発		
事業所名	グループホーム 庄司屋敷		
所在地	〒859-1401 長崎県島原市有明町湯江甲1374番地 (電話)0957-68-5757		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年11月16日	評価確定日	平成20年3月3日

【情報提供票より】(H19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤	20 人, 非常勤 人, 常勤換算 11.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1階建ての 階 ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 600 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名
要介護1	8 名	要介護2	2 名		
要介護3	12 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.4 歳	最低	62 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柴田長庚堂・島原保養院・松下歯科医院・まき歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高台に建てられた当ホームは、木造の平屋造りでゆったりと建設され、地域に根ざしたホームとして、自治会の名称をそのまま「庄司屋敷」と名付けられた。信頼される施設を目指し、日々努力されており、同一法人に福祉施設が多くあり、共に熱い思いを全力で投入され、19年度より新体制になったことで、施設長を中心に3ユニットが一丸と成り、チームケアを益々充実する事で、施設の向上を図っている。また、広いスペースを有する事で、入居者の居場所の確保や、機能維持向上を日常生活の中で取り入れる事が出来、色々な場所で語らう姿が見受けられ、入居者の表情や行動から生活を楽しまれている様子を感じられる心温かいホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価後は職員会議で報告され、前回の評価に対し改善項目には優先順位を付け、明確に取り組みを決め、積極的に取り組まれている。入居者の羞恥心への配慮は優しい心配りをされたり、入居者の状況に沿って実践されている。又、評価の意義を理解され、外部の他者から学ぶ姿勢があり、メモを取りながら、真摯に受け止めて頂いた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットで取り組みに違いがあるが、自己評価シートを職員に配布されそれぞれが記入や、ミーティングを開き検討され、管理者が集約して記述し、職員が全員で取り組み評価項目を理解されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は自治会長・家族の代表(3名)・島原広域市町村圏組合・法人専務・施設長・主任(3名)・事務の構成メンバーで、2ヶ月毎に行事や現状報告等を討議されている。成果として自治会長の参加により施設を理解して頂き、地域との交流の幅が広がってきた事・家族に現状を理解してもらえた事・広域の方から活発な意見が聞けた事等、サービスの向上に繋がる意見交換の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	3月に家族会の開催、玄関には意見箱を設置し、来所時には家族の意見や要望を傾聴する機会を設けている。少しずつ聞けるようになってきているが、預けているがゆえに言えない家族の心情を考慮した様々な取り組みとして、満足度チェックアンケートや便り等の実施をし、「何時でも意見や苦情を申し出てください」「申し出の事例や解決方法」等を記載する事で、本音が聞ける取り組みが期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設の周りに住宅は無く、田畑であり、ややもすると孤立してしまう環境であるが、地域の職員が5~6名勤務され、地域の行事の参加や、農作業中の人に散歩時に挨拶をしたり、運動会の参加や中学生の福祉体験学習の受入等、入居者の状況を考慮しながら、可能な限り地域の人と触れ合う機会を設けられている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者のニーズや事業所の変化に伴い、19年度から理念を見直し、地域での穏やかな生活を視野に入れ「安心と尊厳のある生活」を過ごして頂く事を理念に取り入れ作成されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアにおいて、職員に理念の浸透を図るため、毎日の出勤時には必ず目視をし職務に当たることを浸透されている。職員は、入居者を自分の大切な人と接するように心がけ、日々のケアに取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設は農地の中に在り、ややもすると孤立してしまう環境であるが、地域の職員が5～6名勤務され、地域の行事の参加や散歩時の挨拶・運動会への参加・中学生の福祉体験受理事等入居者の状態を考慮しながら、可能な限り地域と触れ合う機会を設けられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に自己評価シートの記述を促したりミーティングを開催し、管理者が意見を集約し、記述されている。又、改善計画シートを作成し、改善に向けての取り組みの実施が見受けられる。今回の評価に対しても、外部の他者から学ぶ姿勢が有り、メモを取りながら真摯に受け止めて頂いた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を確実に2ヶ月に1回開催されている。成果として、自治会長の参加により、施設を理解して頂き地域との交流の幅が広がってきた事・家族に現状を理解してもらえた事・広域の方から活発な意見が聞けた事等、サービスの向上に繋がる意見交換の場となっている。		

グループホーム 庄司屋敷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とのかかわりは、介護保険の更新時や施設での行事の開催時に椅子やテーブルを借りる・福祉祭りに入居者の作品の出展等、関わりを持たれているが、今後の様々なことを想定して、より密接な関係作りを要望されている。		市町村との関係は色々な方面から考えられるが、身近なこと(例、食生活改善委員に来所依頼をされ、入居者と一緒におやつや食事の調理)から試みられることに期待したい。又、民生委員の方の来所等も思考され、積極的に取り組まれることに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便り(毎月発行)を作成し、送付や面会時に入居者の様子を報告し、通常受診以外の特変事は連絡をしている。金銭管理は出納帳をコピーし、領収書を添付し送付され、家族の訪問時に確認印を頂き明確にされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、家族の来所事に入居者の状態を話し、意見や要望を聞く努力をされている。3月に家族会を開催され、傾聴する機会を設け、以前より話しを聞けるようになってきているが、家族の心情に配慮した取り組みに不足を感じる。		預けているがゆえに言えない家族の心情を考慮した取り組みとして、満足度チェックアンケートの実施や、毎月発行されている便りに、「何時でも意見・苦情を申し出て下さい」「申し出の事例や解決方法」等を記載され、家族の本音が聞ける取り組みを期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は全員が常勤であり、各ユニットでの所属は決まっているが、欠員時には応援体制が確立している。新人職員や交代員が発生した場合は、便りに載せ家族へ紹介をしている。又、新人職員は自主的に事前に何度かホームを訪問し、入居者との触れ合いを大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は希望者を募り参加できる人が受講し、報告し資料を閲覧しており、職員の資格取得に向け、協力的体制が配慮されている。内部研修として各棟で自主的にされているが、職員のスキルアップに至るまでの具体的な取り組みとはいえない。		日々の介護において知り得たい情報や、法改正に伴う情報や遵守すべき事を含む内部研修を充実され、職員のスキルアップに繋がる取り組みを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島ケア研究会に参加する事で、他ホームとの職員と顔馴染みで、グループワーク等で交流が図られている。事業所が持つ関連施設をケア会議の会場に提供される事が、同業者間のネットワーク作りができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は、直接や入居者の関係者からの紹介等多くの待機者を抱えている。施設見学や自宅訪問や入院中の病院訪問を施設長と管理者が行い話しをし、理解されながらの入居へ繋がるように、心身の状況に配慮しながら実施されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であり年長者である入居者から学ぶ場面は多々あり、昔の話し・伝承遊び・歌・食物・料理等教わり、感謝の気持ちを伝えながら共に生活を楽しまれている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの希望を取り入れた支援に努力されており、入居者記録や生活歴やADLで把握されていたが、19年度から暮らしの基本シートの書式に変更されている。2名の入居者のみの記録で、今後書式の統一に取り組まれる予定である。		19年度から導入された暮らしの基本シートに必要事項の記述を入居者全体に浸透され、入居後に知り得たその人の情報を追加記述することによって、職員の日々の支援の中でケアのキーポイントとなる記述が期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成後、家族から同意(日付・記名・捺印)を得られている。入居者や家族の意向を聞き取り、アセスメントに基づく実践可能な計画が作成されているが、入居者の主訴から課題抽出でなく、介護者の視点からの計画に留まっている。又、計画の目標設定期間が詳細ではない。		入居者やその家族の意向から課題抽出をされ、主訴を織り込んだ介護計画を作成され、援助される事は必要不可欠であり、期間設定は詳細な記述が望まれる。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の記録に介護目標を記述し、計画に沿っての記録を心がける事で、サービス担当者会議に気付きや情報として活用され、定期的に状態変化時や現状に即した計画の見直しが実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者と家族の暮らしの継続性を守る為、医療連携・病院受診・重度化に伴う終末期の入院回避・入退院時の送迎・家族の宿泊・往診等ニーズに答える柔軟な対応をされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医を重視し、近くの病院を以前からの提携医療機関に追加し、情報交換や適切な受診支援が密接に行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に看取りに関する指針を明確にし説明されている。家族の希望や入居者の状況を考慮して医師と相談しながら支援されているが、医療行為が重度になった場合は、入院になるケースが殆んどである。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	書類面や知り得た情報は、個人情報保護方針に基づき使用同意書を得ている。日々のケアにおける声掛けや行為に対し入居者へ尊厳を持ち、誇りやプライバシーに配慮されているが、何気ない会話に配慮不足を感じる事がある。		プライバシーや個人情報に関して、「何処まで」「どのような対応」を考慮した、職員の勉強会(例・施設内で考えられる個人情報保護やプライバシーに関する問題形式を作成され、全員で記述)を実施され、理解をされた上でのケアを期待したい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れはおおまかに決められているが、施設長や事務職員を勤務シフトに加えず、入居者の特変や職員の休みに対応する事で、入居者の希望に沿った柔軟な支援が実践されている。		

グループホーム 庄司屋敷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ・味見・配膳・後片付けに至る一連の作業を入居者と一緒にされ、ホーム内の畑で採れた野菜が食卓に上ることも多く、家族揃っての楽しい食事風景である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の午前中を入浴日にされているが、希望者は毎日入浴を楽しまれている。羞恥心に配慮し、ガラス越しに見えないようにカーテンをしたり職員調整をしながら介助されている。又、清潔面に考慮し、入居者の状態に合わせ、1日2回清拭をされることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の能力に応じて、家事や生活全般のできる事をされ、畑の種まきや花作り・編み物・習字・縫い物・歌・踊り・外出等、生き生きとその人の活力になる支援がされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気に触れる事を大切にされ、4月～11月は外出支援を盛り込み、買い物・散歩・ドライブ・墓参り・日帰り温泉・紅葉見物・花見・ホームの庭で食事等、戸外に出る支援をされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない事を前提として、玄関チャイムを設置し、入居者の状況を把握しながら、見守りや気配りで支援されている。訪問時に出口を探して徘徊される入居者に、職員が笑顔で近づき、離れず気長に支援されている姿を見ることができた。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いで年2回火災・避難訓練や消火器を使った実践さながらの訓練が実施されている。消防計画書や避難経路や自衛消防組織を明確にし、非常時に備えられている。しかし、地震や水害等の自然災害を想定した訓練の実施は無く、非常時の備蓄や持ち出し品に関しては、関連事業で準備が可能である。		関連事業にファミリーマートがあるが、非常時の移動を考慮した施設内の備蓄・持ち出し品のチェックや、災害をあらゆる方面から想定した、地震や水害等の自然災害訓練の実施等の取り組みに期待したい。

グループホーム 庄司屋敷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士が作成したものを参考に立てられバランスの良いものを、入居者の咀嚼や嚥下状況に配慮して、ミキサーや軟らかさや大きさに工夫した食事が提供されている。水分摂取量は記録され確実に支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高台に建設され、換気・日当たりが良く、静かで騒音は無く、清潔的である。各ユニットの玄関に思いのこもった作品を掲示する場所があり、季節を感じる事が出来る。又、畳・ソファー・テーブル・炬燵等居場所の確保ができており、居心地のよい共有空間が提供されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は皆さんそれぞれの馴染みの品(寝具・仏壇・コンテナ・箆笥・椅子・小物等の生活用品)を持ち込み、生活を感じる居室作りができています。		